

INFORMATION



《NEWS》

■「はにわを作ろう！はにわデー」を開催しました

8月20日(火)・8月28日(水)の両日に、当センター設立35周年記念イベントとして「はにわを作ろう！はにわデー」を開催しました。主な参加者である幼稚園～小学校の児童たちはもちろん、保護者の方も交えての賑やかな催しとなりました。展示室の個性豊かな埴輪を見学し、粘土を使って一から埴輪を製作するという体験を通じて、古墳時代や埴輪そのものへの興味・関心を育んでもらうことができましたようです。



《おしらせ》

■公益財団法人印旛郡市文化財センター設立35周年記念企画展「印旛のはにわ～どうしてムササビ?～」開催中

当センター考古資料展示室にて、2020年6月19日(金)まで企画展を開催しています。今回の企画展では印旛郡市文化財センター設立35周年を記念し、印旛地域の埴輪がテーマとなっています。成田市上福田古墳群(古墳時代中期後半)、南羽鳥高野遺跡(古墳時代後期前半)、佐倉市角来野谷1号墳(古墳時代後期前半)、印西市大木台2号墳(古墳時代後期後半)から出土した埴輪のほか、南羽鳥正福寺遺跡(古墳時代後期前半)のムササビ形埴輪などを展示しています。



*考古資料展示室開室日時 平日 9時～17時。(休館日：土・日・祝祭日・年末年始)

《令和元年度 調査を終了した遺跡》

- 〈成田市〉水神作遺跡(第5次)(縄文・古墳・奈良・平安時代・中世)
三里塚御料牧場遺跡(縄文・奈良・平安時代)
- 〈佐倉市〉白井台手繰遺跡(第2次)(中世)
- 〈印西市〉高堀遺跡(縄文時代・中近世)
西ノ原第3遺跡(縄文・古墳・奈良・平安時代・中世)
西ノ原第3遺跡(第2次)(縄文・古墳・奈良・平安時代・中世)

- 〈八街市〉こえっばの弁天遺跡(中世・近世)
- 〈酒々井町〉下宿栗ノ洲遺跡(第11次)(縄文・弥生・奈良・平安時代)

《令和元年度 整理作業を終了した遺跡》

- 〈佐倉市〉白井台手繰遺跡(第2次)(中世)
- 〈四街道市〉桜ヶ丘遺跡(第4次)(旧石器・縄文時代)他
- 〈印西市〉高堀遺跡(近世)
- 〈栄町〉宮前遺跡(古墳・奈良・平安時代)

《令和元年度 調査を行っている遺跡》
(10月末現在)

- 〈成田市〉取香牧野馬除土手(近世)
- 〈佐倉市〉向山谷津遺跡(第3次)(縄文・古墳・奈良・平安時代・中世)
- 〈印西市〉東海道遺跡(第2地点)(縄文・古墳・奈良・平安時代)
- 〈柏市〉花戸原遺跡(第16次)(古墳・奈良・平安時代・中世)

《令和元年度 整理作業を行っている遺跡》

- 〈成田市〉畑ヶ田遺跡群
三里塚御料牧場遺跡(縄文・奈良時代)
- 〈佐倉市〉六崎外出遺跡(第25次)(縄文・弥生時代)他
- 〈印西市〉瀧水寺裏遺跡(第2地点)(古墳時代)他
株木第1号墳・第2号墳(古墳時代・平安時代)
榎台第1遺跡(古墳時代)
- 〈柏市〉花戸原遺跡(第10～13次)(古墳時代・奈良・平安時代・中世・近世)
中馬場遺跡(第9・10次)(奈良・平安時代)
- 〈匝瑳市〉多古田低地遺跡(縄文時代)

※発掘現場、室内作業は見学できます。ご期待に添えない場合もありますので、かならず、事前にご連絡ください。

《ご案内》

ホームページとスマートフォン版サイトをご利用ください。当センターの最新情報をお伝えしています。下記URLもしくはQRコードより閲覧してください。

PCサイト <http://www.inba.or.jp>
スマホサイト <http://www.inba.or.jp/sp>



令和元年11月15日 令和元年度(485)9871 043(484)0126(0) 043(485)9871 千葉県佐倉市春路1-1-4 ☎043(484)0126(0) 043(485)9871
<http://www.inba.or.jp> (スマホサイト) <http://www.inba.or.jp/sp>
 〒285-0814 千葉県佐倉市春路1-1-4 公益財団法人 印旛郡市文化財センター 発行・編集 フィールドブックvol.42

FIELD BOOK



じょう ばん づか
佐倉市 城番塚遺跡(第7次)



写真1: 調査区遠景



写真2: S字口縁甕



写真3: 瓦塔



写真4: 「仁」墨書土器



写真5: 平題形鍬

城番塚遺跡は、佐倉市城字番塚673-1に所在する遺跡です。今回、集合住宅の建設に伴って発掘調査が行われました。

調査の結果、弥生時代後期から中近世にかけての集落跡および墓域跡が確認され、長期間にわたって人々が暮らしていた場所であることがわかりました。

そのうち古墳時代前期の遺物として、東海地域のS字口縁甕と呼ばれる特徴的な土器の搬入品(写真2)が出土しており、はるか西方の人々との関わりがあったことがわかりました。

また、遺構外からは平安時代につくられた瓦塔と呼ばれる仏塔を模した焼物の塔の一部が出土しています(写真3)。その形状や製作手法から平安時代の初め(8世紀後葉～9世紀前葉)の間につくられたものであると考えられます。そのほか、3号住居跡からは「仁」字の墨書土器(写真4)も出土しました。

これまでの調査によって、現在の国道51号線沿いには古代の主要道路が想定されており、佐倉市白銀地区にある長熊廃寺という8世紀前葉にたてられた古い寺院を中心として、瓦塔や「寺」字の墨書土器など、多くの仏教関連遺構や遺物が確認されています。城番塚遺跡もその一部に属しており、先進的な文物や情報を入手しやすい場所であったと考えられます。残念ながら今回の調査では瓦塔を安置した仏堂は確認できませんでしたが、今後の調査が期待されます。

遺跡はその後、9世紀後葉に入ると住居は作られなくなり、墓域としての利用が開始されたと考えられます。墓坑と考えられる25号土坑からは故人に副葬された平題形と呼ばれる練習用の鍬(写真5)が出土しています。遺跡の南側には平安時代の終わりから中世の初めの創建と伝えられる円城寺が隣接しており、その後も墓域として利用された可能性があります。

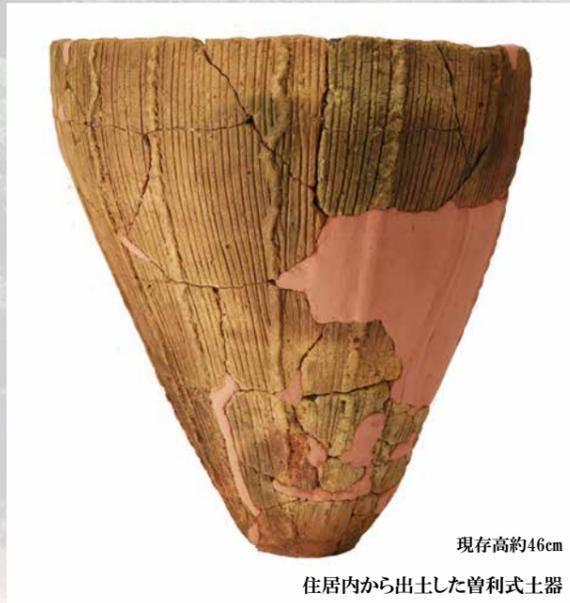
このように、城番塚遺跡は古くから仏教に関連のある遺構や遺物がみつかり、その歴史が現在まで脈々と受け継がれていることが、発掘調査成果からも窺うことができます。

成田市 水神作遺跡 (第5次)

水神作遺跡は成田市所、大栄インターチェンジにほど近い場所に所在し、大須賀川の東岸の標高約40mの台地上に位置しています。土砂採取に伴う埋蔵文化財調査で、過去4回の調査が行われており、今回の調査ではそのうち約3,000㎡の面積を調査しました。

調査により、縄文時代や奈良・平安時代の竪穴住居跡が多数見つかりました。なかでも縄文時代中期(約4700年前)の遺構は、竪穴住居跡10軒・小竪穴15基・土坑16基が見つかったことから、当時の大規模な集落であったことがわかりました。

特に注目すべきは、長軸約10m・短軸約8mの大型の竪穴住居跡が見つかったことです(右ページ)。住居の柱を据えた柱穴も大きく、立派な住居であったと考えられます。この住居は火を用いて取り壊されており(焼失住居)、住居の廃絶時をそのまま留めた状態で埋没しています。そして住居内部からは千葉県ではおなじみの加曽利E式土器のほかにも、長野県や山梨県などの中部高地を中心に分布する曾利式土器が一括して出土し、文化の交流が窺える住居跡です。



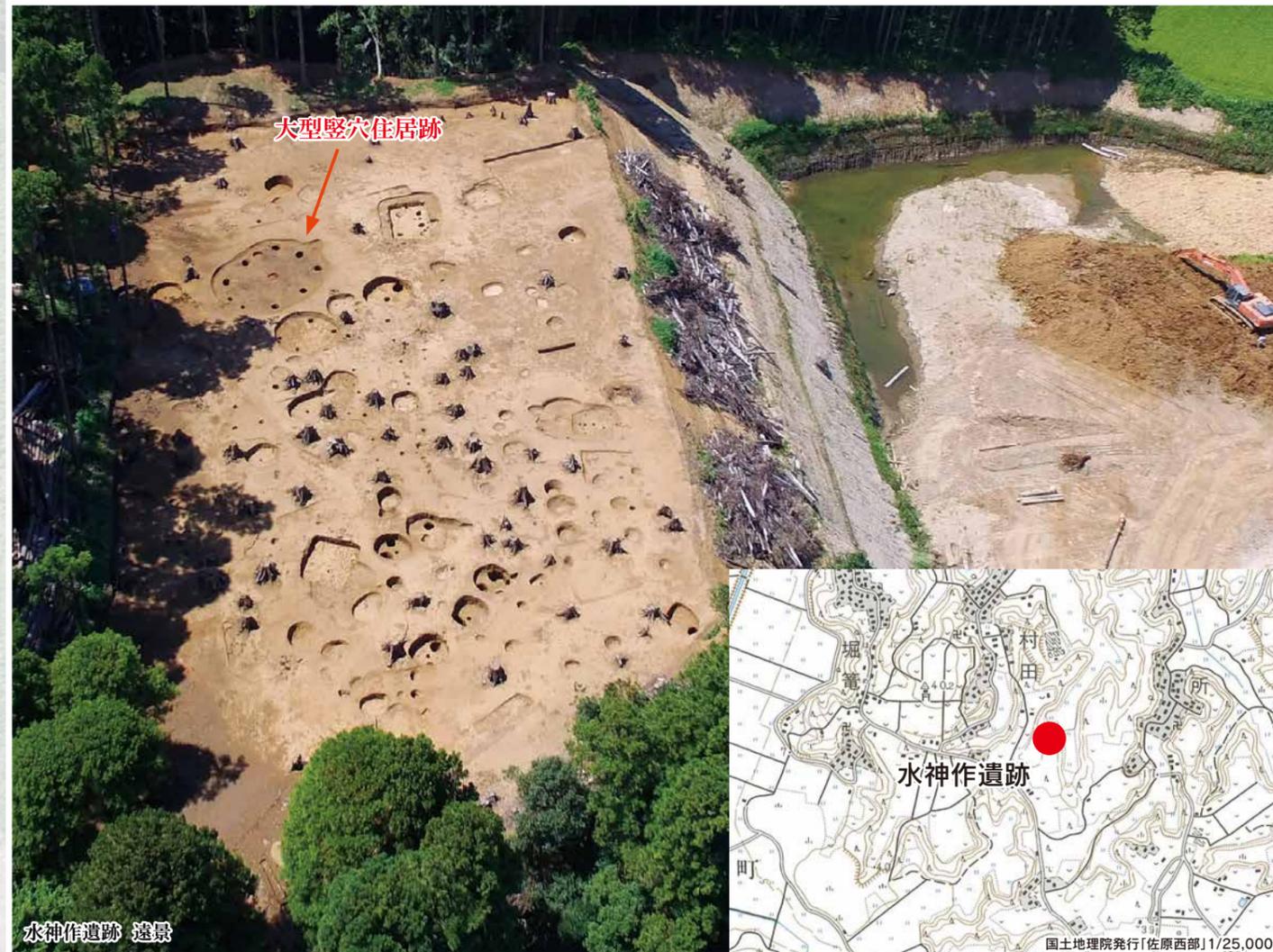
現存高約46cm
住居内から出土した曾利式土器



炭化材出土状況



炭化材検出風景



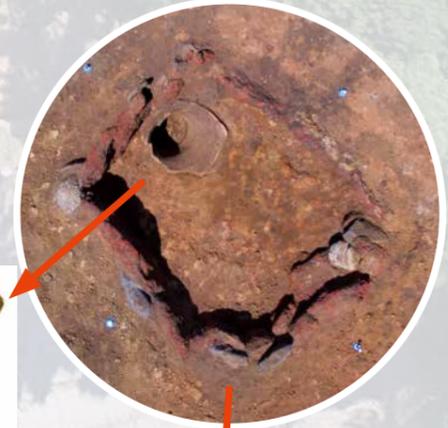
水神作遺跡 遠景



住居全景



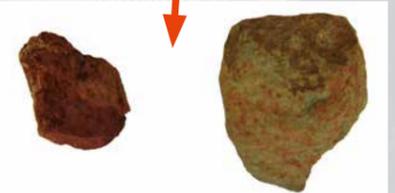
炉調査風景



住居中央に設置された炉は、中に加曽利E式土器の一部(口縁部~胴部)が埋設されていました。また、炉の囲いに使用された材は大半が粘土板であり、その隙間を補うように砂岩や曾利式土器の破片が使われていました。このように粘土板で囲いをしたり、型式の違う土器を組み合わせで造られた炉は大変珍しく、加曽利E式土器の文化圏である千葉県と、曾利式土器の文化圏である中部高地との何らかの交流によって生まれた可能性が高いです。現在、他に類例がないか調査中です。



現存高約21cm
炉内から出土した加曽利E式土器



炉を囲う粘土板(左)と砂岩(右)